

# ほっかいどう 道路整備プログラム

その先の、道へ。北海道

北海道建設部

写真：パノラマロード(八雲町)

# 目 次

●はじめに	1
プログラム策定の趣旨	
●道路整備を取り巻く現状や課題	2
1 人口減少・高齢化の急速な進展	
2 広域分散型社会	
3 自然災害に対する脆弱性	
4 道路施設の老朽化	
5 冬期における道路交通の現状	
6 交通事故の状況	
7 食産業の成長産業化実現に貢献	
8 観光立国実現に貢献	
●道路整備の基本方針	6
道路整備プログラムの体系	
1 幹線道路ネットワークの形成	
・ 高規格幹線道路等ネットワークの形成	
・ 活力ある都市の活性化を支える道路整備の推進	
・ 食と観光を支えるネットワークづくり	
2 道路施設の老朽化対策と長寿命化の取組の推進	
・ 長寿命化修繕計画に基づく老朽化対策等	
3 災害に強い道路交通環境の整備	
・ 災害に備えた安全な道路交通環境の整備	
・ 冬期における安全で快適な道路交通の確保	
4 安全・安心な道路交通の確保	
・ 幹線道路や通学路等における交通安全対策の推進	
・ 日常生活を支える生活道路の整備	
・ 中心市街地の活性化に向けたまちづくりの推進	
●位置図、事業箇所	12

## プログラム策定の趣旨

広大な面積に179の市町村が点在する本道は、広域分散型社会を形成しており、人の移動、物資の輸送の大半を自動車交通に依存していることから、道路は、道民生活や経済活動を支える重要な社会基盤です。

これまで道では、「北海道総合計画」や「新・ほっかいどう社会資本整備の重点化方針」に基づき、物流や観光を支える交通ネットワークや安全で安心な道路交通環境などの整備を進めてきました。

しかしながら、加速するインフラ老朽化、頻発・激甚化する自然災害への備え、人口減少等への対応など道路整備を取り巻く環境が変化しており、計画的・戦略的な整備計画が必要となっています。

高規格幹線道路においては、総延長に対する未着手の割合が本道を除く全国では4.3%であるのに対して、本道は25.9%となっており、ネットワークは未だ脆弱な状況にあります。

また、2030年度末には北海道新幹線の札幌開業も予定されており、圏域間の連携強化、観光地へのアクセス支援、農水産物を中心とした物流の効率化による生産性の向上など道路に求められる役割はさらに大きくなっています。

本プログラムは、こうした現状や課題を踏まえて、より一層計画的かつ効率的な道路整備・機能強化に取り組むため、今後10年間の本道における道路整備の方向性を示し、着実に道路整備を実施するための指針として活用することを目的として策定します。

### ○対象路線

北海道全体の道路ネットワークを示すため、高速自動車国道、一般国道、道道、市町村道を対象とします。（※札幌市内を除きます）

### ○対象期間

2018年度から2027年度までの10年間とします。

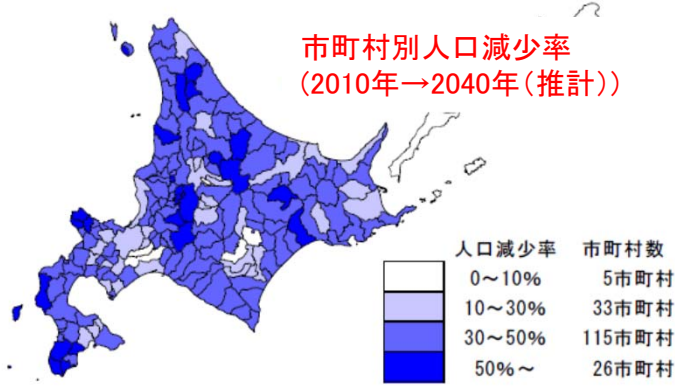
# 道路整備を取り巻く現状や課題

## 1. 人口減少・高齢化の急速な進展

○北海道は全国を上回るスピードで人口減少・高齢化が進展しており、総人口は2015年の538万人から2045年には400万人まで減少、高齢化率は2015年の29%から2045年には43%まで上昇の見込みです。

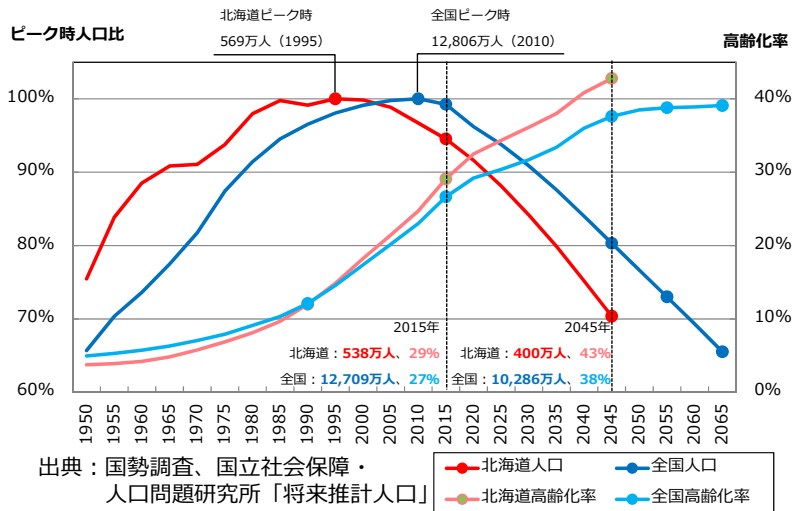
### ■市町村別人口減少率

2040年には8割の市町村で3割以上の人口減少



(北海道総合開発計画(平成28年3月閣議決定)概要版)

### ■人口及び高齢化率の推移



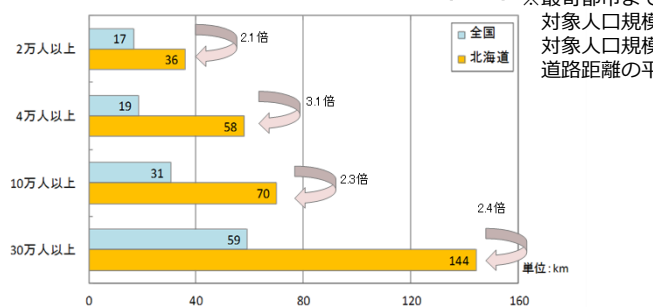
## 2. 広域分散型社会

○広域な北海道においては都市が分散しており、最寄り都市までの平均道路距離は全国の約2倍~3倍となっています。

○本道の医療機関は道内中核都市に集中しており、救命救急センター等へのアクセス性が課題となっています。

○人流・物流に関しては自動車に依存している地域が多くあります。

### ■最寄都市までの平均道路距離 (km)



※集計には離島を含まない。  
資料: NITAS (総合交通分析システム) H24年度Ver.2.0を用いて集計

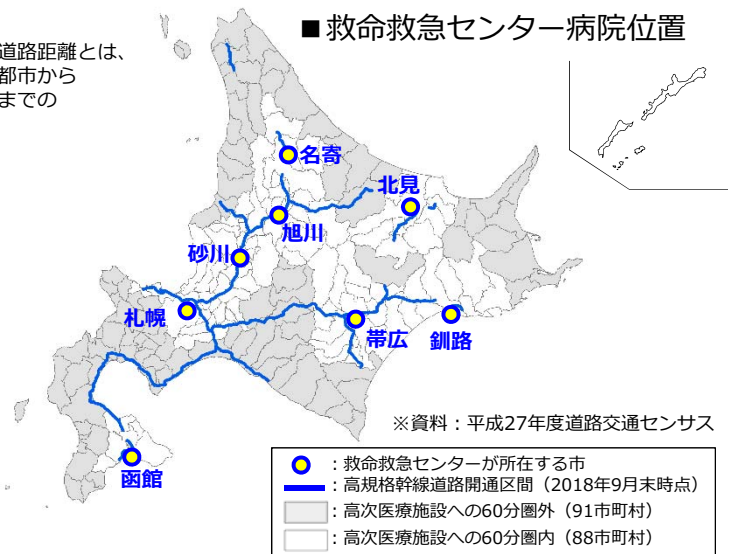
### ■北海道内の旅客者全移動手段に対する自動車による移動割合 (H28年度)

着	道北	道東	道央	道南	北海道
道北	94.4%	88.6%	51.8%	0.0%	92.7%
道東	96.0%	97.1%	43.4%	0.0%	96.2%
道央	48.9%	45.9%	38.7%	33.5%	38.8%
道南	0.0%	0.0%	11.2%	79.8%	78.6%

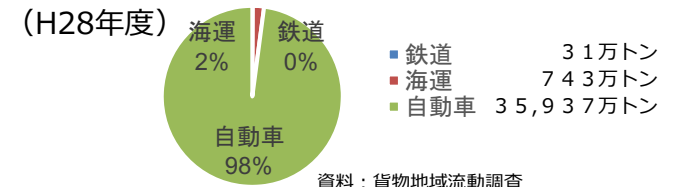
資料: 国土交通省運輸局HP

■ : 割合70%以上  
■ : 割合90%以上

### ■救命救急センター病院位置



### ■輸送モード別北海道内間の貨物流動量割合 (H28年度)



# 道路整備を取り巻く現状や課題

## 3. 自然災害に対する脆弱性

○北海道は頻繁に大きな自然災害が発生し、その度に各地で交通が寸断され、産業、生活面において多大な影響を受けています。高規格幹線道路の暫定2車線区間の4車線化や、防災・減災対策など、強靱性・信頼性の高い道路交通環境の確保が課題となっています。

道内で発生した主な災害の状況



火砕流が発生した  
十勝岳噴火 1988年



2018. 7. 3 豪雨災害  
天人峡美瑛線(美瑛町)の被害状況



2018. 9. 6 地震災害  
北海道胆振東部地震による道路被災



2000. 3. 31 有珠山噴火



2016. 8 台風10号被害  
清水大樹線(清水町)の被害状況

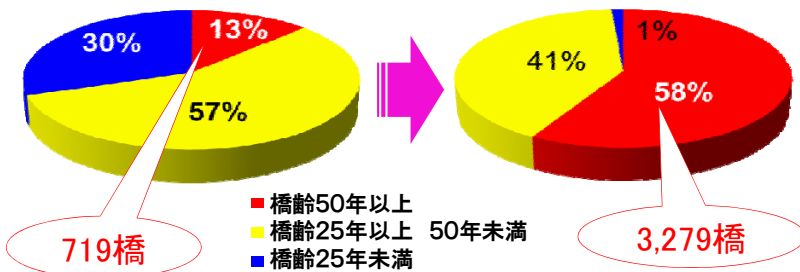
## 4. 道路施設の老朽化

○高度経済成長期以降に整備された橋梁やトンネルなどの道路施設が今後急速に老朽化し、本格的な更新時期を迎えます。

### ■北海道管理の経過年数別橋梁割合

現在2017年

20年後(2037年)



**20年後には50年経過の橋梁が全体の約6割に！  
(719橋→3,279橋 約5倍に増加)**

【橋梁主桁の劣化状況】



【橋梁床版抜け落ち事象発生】



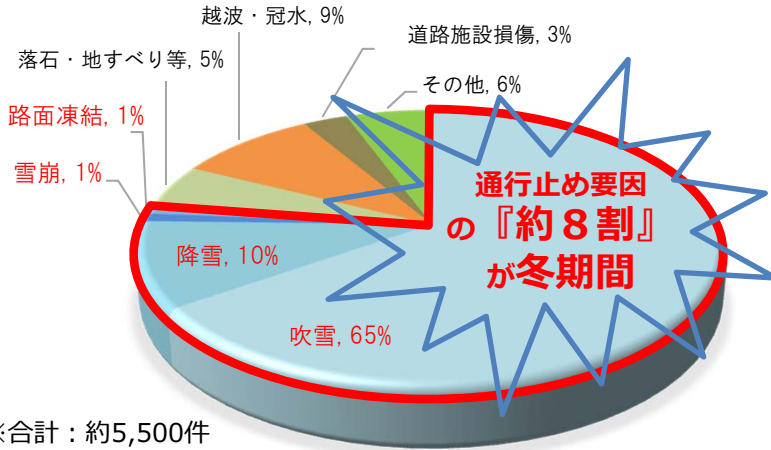
橋梁の老朽化 (H30.4: 通行止め)  
道道熊牛御影線 十勝橋(清水町)

# 道路整備を取り巻く現状や課題

## 5. 冬期における道路交通の現状

- 北海道は国内や国外の主な降雪都市と比べて年間降雪量が多い地域です。
- 冬期における安全な道路の確保は、道内の経済活動の活性化や地域医療の充実など、道民の安全安心な暮らしを守る上で必要不可欠です。

### ■道道の通行止め要因（H21.4～H30.3）



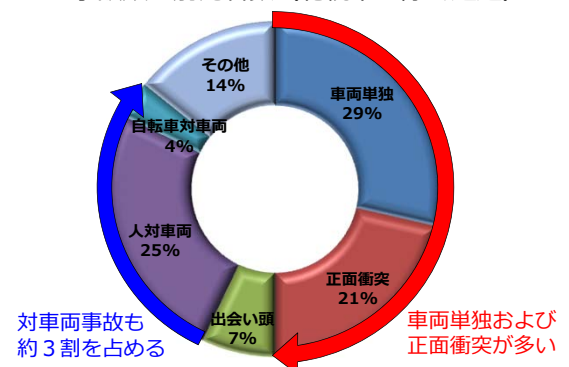
## 6. 交通事故の状況

- 平成30年の北海道における交通事故死者数は、前年より7人少ない141人となっていますが、依然として全国的に見て高い水準であることから、交通安全の対策が課題となっています。
- 交通死亡事故原因の多くは車両単独および正面衝突ですが、歩行者・自転車による対車両事故も依然として3割程度を占めている状況です。

### ■交通事故死者数ワースト順位の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1位	愛知県 389	愛知県 326	愛知県 318	愛知県 281	愛知県 256	愛知県 276	愛知県 235	愛知県 219	愛知県 204	愛知県 213	愛知県 212	愛知県 200	愛知県 189
2位	北海道 277	北海道 286	埼玉県 232	北海道 218	北海道 215	東京都 215	北海道 187	兵庫県 187	神奈川県 185	大阪府 196	千葉県 185	埼玉県 177	千葉県 186
3位	千葉県 266	東京都 269	北海道 228	埼玉県 207	215	埼玉県 207	200	千葉県 186	千葉県 182	千葉県 180	大阪府 161	東京都 164	埼玉県 175
4位	埼玉県 265	千葉県 254	東京都 218	大阪府 205	茨城県 205	兵庫県 197	東京都 183	北海道 184	兵庫県 182	兵庫県 178	東京都 159	兵庫県 161	神奈川県 162
5位	東京都 263	大阪府 248	千葉県 213	205	大阪府 201	大阪府 197	大阪府 182	184	埼玉県 173	埼玉県 173	北海道 158	千葉県 154	兵庫県 152
					6位	北海道 190			7位	北海道 169			
										8位	北海道 177		
												8位	北海道 148
													北海道 141

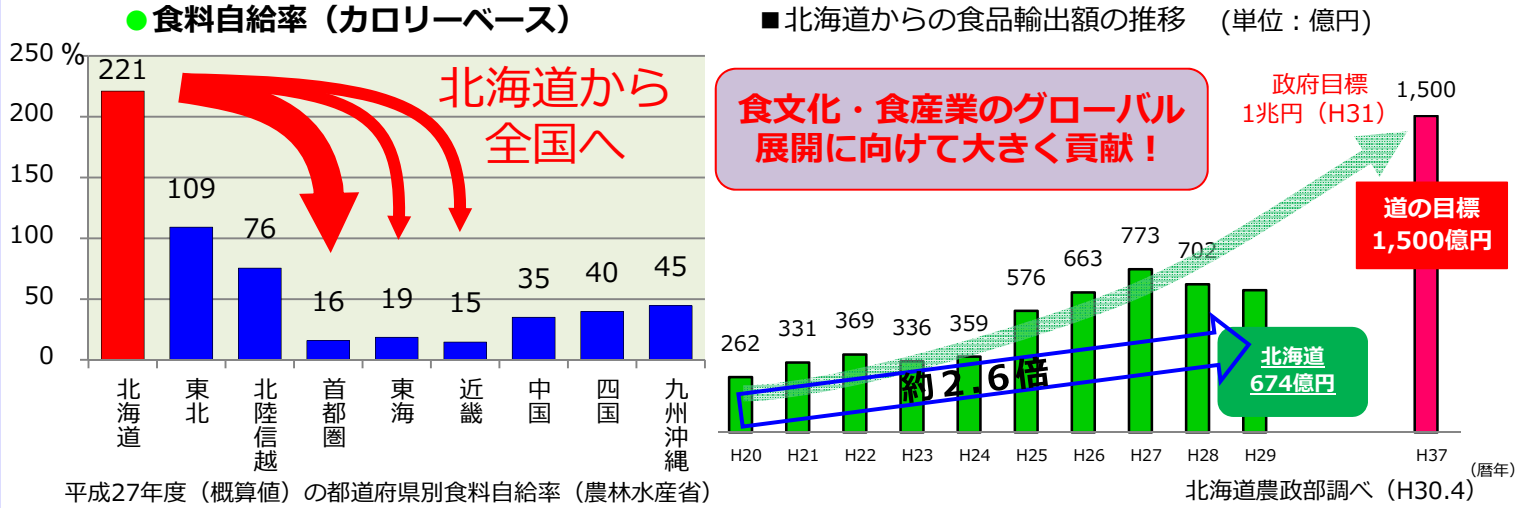
### ■事故類型別死者数（札幌市を除く道道）



# 道路整備を取り巻く現状や課題

## 7. 食産業の成長産業化実現に貢献

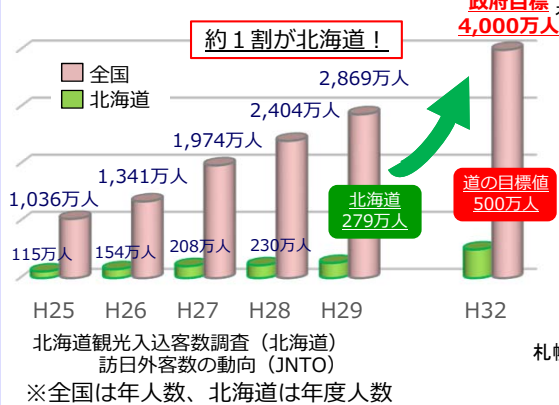
- 北海道は広大な農地で育まれた農産品や豊富な水産品を強みとし、我が国の食料供給基地として貢献しています。
- 道産食品の輸出額は10年間で約2.6倍に増加しており、より一層、我が国のグローバル化に寄与するためには、物流を支える空港や港湾などへのアクセス道路の整備が課題となっています。



## 8. 観光立国実現に貢献

- 北海道は豊かな自然環境や、四季折々の景観によって、国内外から高い評価を得ており、政府が掲げる「訪日外国人旅行者数4,000万人」といった観光立国の実現に向けて大きく貢献します。
- 主要観光拠点が分散している道内においては、豊富な観光資源を活用するため観光地間を効率よく移動できる道路交通網の整備が課題となっています。

### ■訪日外国人旅行者の推移



### ■道内の主な観光地と高規格幹線道路

